

## 第3回検討会概要

### (1) 開催概要

#### 1) 開催日時

平成 28 年 2 月 5 日（金） 10：00～12：00

#### 2) 開催場所

TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター カンファレンスルーム 4R

#### 3) 議事

1. 第 2 回検討会以降の主な指摘事項と対応状況について
2. 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書（案）について
3. 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書の公開に向けたスケジュールについて

#### 4) 配布資料

- 資料 1 : 第 2 回検討会以降の主な指摘事項と対応状況
- 資料 2-1 : 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書（案）
- 資料 2-2 : 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書 付属書（案）
- 資料 3 : 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書のパンフレットイメージ



図 -1 第3回検討会 開催状況

## (2) 検討会における主な指摘

### 1) 議事 1. 2回検討会以降の主な指摘事項と対応状況について／議事 2. 物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書（案）について

#### (i) 遺伝的多様性や「多様性」そのものに対する記述

- ・ 生物多様性の学術的価値というところにもっと言及した方が良いのでは。微生物の話でノーベル賞ももらったところもあるので。(委員)
- ・ 植物のアレロケミカルによる除草剤や花の香が与える影響など。そういった事例はたくさんある。(委員)
- ・ 潜在的価値やバイオプロスペクティングは、IPBES や MA から引き継いでいる課題と思っているので、まだ弱いところである。今後の課題について明記しておくことは必要ではないか。(委員)

#### (ii) そばや農作物の多様性に関する記述

- ・ 現在の表現は誤解を生むことを懸念している。作物政策は市場のニーズに影響される。(農水省)
- ・ 図 2-4-1 はアワ、ヒエとあわせてソバの変化があるが、そばについては水田の整備に伴う作付面積の変化など色々な状況に影響されている。(農水省)
- ・ 市場原理によって農作物の生産が変化しているのはわかる。一方で消費者のニーズが多様化している部分もあって新しく作られている作物についても触れて良い。京野菜や九州の方で増えている農作物もあるので、そういったトレンドも市場現地の中で拡大していく。(委員)
- ・ 地域野菜の件も言及した方がよい(委員)

#### (iii) 耕作放棄地について

- ・ 第2の危機の耕作放棄については質の低下が進んでいるという認識ではあるが、世の中の的には必ずしも一方向ではないため、意見を出させていただいた。(委員)
- ・ 第2の危機がいつから始まっているか 80年代であるが、量的な変化は空から見たのではわからない。質的な変化であるとの意見であったため、そこを丁寧に書いてほしいという意図であった。(委員)

#### (iv) 沿岸域の生態系に関して

##### i) 東日本大震災の影響

- ・ P96 沿岸域の生態系は、海岸事業での生態系保全の話を書いており、一方での海岸堤防の話と相反する印象があり、整合性が悪い気がする。(委員)
- ・ 海岸堤防の件は、今回の防潮堤については、意見が割れている。検討委員会で白黒つけるよりは、課題として記載した方が良いのではないかと(委員)
- ・ 堤防でなく緩衝帯を設けることで、生態系サービスを維持しながら…ということに記載してはどうか(委員)
- ・ EcoDRR を参考に記述していただきたい(委員)

## ii) 砂利採取

- ・ 砂利採取から生態系を評価するという点については、もう少し丁寧な説明が必要ではないか。砂利採取から生態系を評価するというのは理解に時間がかかる。(委員)
- ・ 砂浜や沿岸生態系が減っている要因の一つであるので、生態系に対するドライバの話である(委員)

## (v) 漁業や水産資源に関する影響について

### i) 東日本大震災漁業への影響について

- ・ P93で東日本大震災に関する記述があるが、生業としての漁業は壊滅的な影響を受けているが、ポテンシャルや生態系サービス、生態系そのものの劣化が原因ではない。社会のインフラ側の問題であるところが多いのでJBOの中では少し丁寧に書いた方がよい。(委員)
- ・ 震災の漁業への影響は確かにそのとおり。(委員)

### ii) 水産資源の状態について

- ・ III-14の指摘において、資源評価で低位の割合が高くても資源状態が深刻でないといえるのはなぜか。(委員)
- ・ オーバーフィッシングだけでなく、環境が変わったことによって資源状態が深刻になることもある、であるから資源状態が低位のものが多いというのは事実としてあるのではないか。低位であることは回復に努めなければならないとジャッジされたということではないか。(委員)
- ・ 努力をすれば回復するのであれば努力の必要がある。深刻ではない、とはいえない。P113のなかでほとんど何も書いていない状況であるので、現状を認識してきちんと取り組んでいると書いた方がよい。(委員)

## (vi) 災害緩和について

### i) 土砂崩壊

- ・ III-23の指摘と委員意見との相違は、崩壊については規模の問題があるのではないか。温暖化が進んできて、大規模な降雨のときは山林がなくなるということもあった。こういった雨の規模に関する話が、過去とは変化してきていることは留意する必要がある。(委員)
- ・ 生態系サービスが減ったことを、森林の伐採が減ったこととしているが、実際は海外から木材を輸入したりということであるので、人工林を間伐しないことをいいこととしてメッセージを出して良いのか。このあたりを整理してお伝えいただければと思う。(委員)
- ・ 森林の機能は限界があり、サービスが発揮されないこともあるということである。統計ですべて生態系サービスの変化を表すのは難しい。海外からの木材の話なんかを、ここに書くのがいいかどうかは考えた方がよい(委員)

## ii) 洪水調整

- ・ 遊水地についてはどうか。委員の意見で良いと思う。(委員)
- ・ 委員の意見には賛成。しかし指摘での真意がどこにあるのかわからない、今後湿地を整備していくときにどうしたいのか。(委員)
- ・ 湿原面積が減っていることで、全国の調整機能は下がっていると記載することによる指摘である。確かに海外の関連論文を調べたところ、小さい湿原だと逆にリスクが上がることもあるとされている(環境省)
- ・ 面積が減少すれば、タンクとしての容積は変わるが代替したものが何かによる。(委員)
- ・ 空間的にどのような土地利用の転換が行われるかによるが、という形で1文を入れてはどうか。(委員)
- ・ 湿原の面積がこれだけ減っているので、この通りではないのか。(委員)
- ・ かなり一般的に書かれているところであるので、このままで良いのではないか。(委員)

## (vii) 全体にかかる事項

- ・ 他省庁の指摘に対しては、事実は事実として記載し、行政の方での前向きな取組を一層促進していく書きの方が良いのではないのではないかと。(委員)

## i) 前回からのアップデート部分について

- ・ 最後の指摘であるが、第3者からみて、どの点でこの評価書がアップデートしたのかということ、文章でいいので主要な部分だけでも示すと良いのではないかとという意図である。(委員)

## ii) 福利と生態系サービスの関係について

- ・ III-5の指摘については、付属書の一覧のほかにP103に記述していただいたが、読者にわかりやすいようにということ在意図している。前の方にある記載と、P103の文書のどちらが良いかは好みがあるが、読者にわかるような見せ方をお願いしたい。(委員)

## (viii) 概要(パンフレットのメッセージについて)

- ・ パンフレットや概要で記載されている結論は国際的にも出ていくものなので、これがどういった絞り込み、意見で出てきたものかが分かるようにすること。(委員)
- ・ レジャーの話は結論の最後にあたるので、前向きなメッセージはないか。(委員)
- ・ 概要については、本日の1枚紙が最新版である。1, 2は生物多様性、3以降は生態系サービスの話。3, 4, 5は供給サービス、5には調整サービスも含まれる。6, 7は文化的サービスとしている。(環境省)

#### i) レジャー、自然との触れ合い

- ・ レジャーの話は本文中のどこに記載があるのか。この短い文書は目立つし、わかりやすいメッセージとして伝わる。多様化などの話はどうか。実際には中高年が増えているという実態がある。(委員)
- ・ 地域の民泊は修学旅行等でも増えている。国立公園利用者数が減少していることは明確であり、自然とのふれあいと書くとき大きすぎるか。(委員)
- ・ 一方で環境省としては、国立公園のトレランを禁止するなどの政策もとっている(委員)
- ・ 自然とのふれあいの結論について、英語にしたときに誤解を生む可能性がある。(委員)
- ・ 自然とのふれあいについては残したい。P139に子供たちの自然とのふれあいについてのデータがあり、このあたりを書くということではどうか。(環境省)
- ・ 関連するが学校林という取組が日本にはある。制度としてありデータもあるので記載できないか。ビオトープなども一時期増加している。学校教育のなかで、自然とのふれあいということはかなり進めてきた。(委員)
- ・ 相関は因果関係を示さない。冷静に書くなら事実のみを記載した方がよい。報告書を見ても、道徳感については5つの因子があるので、あいまいな記述は避けた方がよい。(委員)
- ・ 引用だけ記載し、勉強が得意など議論を呼ぶものはやめておいた方がよい。(委員)
- ・ 調査された例もあるという事実を示すくらいでどうか(委員)
- ・ もう少し書いても良いのでは自然体験の頻度と道徳感の関係性が指摘されているなど。(委員)
- ・ 因果関係については、もともとの積極性などの方が書いてあり、はっきりしない。子供たちに自然に触れ合う場を提供するのが良いという書きぶりかどうか。後で修正案をおくる。(委員)
- ・ 7番のところも、日常のふれあいとレジャーのような非日常のふれあいについては、扱いを分けた方がよいのではないか(委員)

#### ii) 報告書と付属書の関係性の示し方

- ・ 報告書と付属書について関係性が示されているのか。(委員)
- ・ 付属書に計算式があるものは、読者がわかりにくいのではないか。初めて見る人がすぐに理解いただけるか、というところである。(委員)
- ・ 別冊(付属書)もあるということは読者に伝わるようにした方がよい。紙面の邪魔にならない程度に関係性について記述を追加してほしい。(委員)

#### iii) アンダーユースの書き方

- ・ アンダーユースの項目については、2つに分けた方がよい。アンダーユースと地方の高齢化、過疎化等の問題はかならずしも因果関係があるわけではない。(委員)

- ・ 過疎化がアンダーユースの帰結の一つであるとはいえる。それを逆転していることが地方創生の意図であると理解している。政策によって都市への人口の集中化が促進され、それを逆転させたのが地方創生だろう。(委員)

#### (ix) 課題

- ・ P149、自然資本の評価や経済評価など評価がいろいろ出てくるが、自然資本に関してはストックの評価なのでそこがわかるようにした方が良い。(委員)
- ・ 自然資本の経済評価よりは、経済価値評価の方がわかりやすい(委員)
- ・ また、代替法は研究対象にあまりなっていないのと、海外でも代替法は忌避される傾向にあるので書かない方が良い。いくつかの評価方法を行っているが、まだ積み残しになっているという書きぶりの方が良い。また、生息地の評価や文化的サービスについても、文化的サービスは研究が進んできているため、この評価の中では実施していないということである。(委員)
- ・ 自然資本に関しては昨年末に自然資本プロトコル(案)がだされ、今年の中でも公開される予定であるので、スケジュールを記載しても良いかもしれない。ここでは基礎的な知見は蓄積されてきており、政策的な応用についてはまだ知見が足りないという書きぶりに変更して頂きたい。(委員)

## 2) 議事 3. 公開に向けたスケジュールについて

### (i) スケジュール

- ・ 2月18日プレスリリース、2月23日の中環審で報告を想定していたが、本検討会でも様々な指摘があるため、厳しいと考えている。(環境省)
- ・ 内容をしっかり作ることを優先させたいため。以下のように見直す。
  - ✓ 2月下旬から3月にはプレスリリース
  - ✓ 3月の生態学会でJBO2のセッションがある(先生方にもご発表いただく)
  - ✓ 9月にハワイで世界自然保護会議がありそこでもポスター発表する予定である
  - ✓ パンプについては英文も作成し、CBDなどでもインプットしたい。
- ・ エコシステムパートナーズの会議が5月31日～6月3日まで韓国で開催されるため、国際的に紹介する良い機会と考える。(委員)

### (ii) 外部へのPRについて

#### i) 生態学会誌での特集号の企画について

- ・ 生態学会誌は2つの選択肢を想定している(環境省)
  1. 特集を組む(複数の論文)
  2. ショートノートの論文として投稿する
- ・ 速報性のようなものが求められると思うため、2)は進めつつ、1)の可能性を探るような感じか。スピード感が重要である。(委員)

(iii) パンフレットについて

- ・ 主な結論と課題を結ぶ矢印については複雑すぎてメッセージ性がない。重要なものだけにしぼれないか。(委員)
- ・ 結論と課題を結びつけないといけないか。(委員)
- ・ 結論、課題、提案について3段階の流れが伝わればよいのではないか。(委員)

(iv) 本検討に用いたデータについて

- ・ 付属書にあるデータなどは、今後データセットを公開するなどの予定はあるか。(委員)
- ・ 今後使える可能性があるので、ぜひ公開していただきたい。(委員)
- ・ 入手方法や誰が使っているか、使用の目的などは情報をきちんと集めた方がよい。(委員)
- ・ オリジナルの論文を書いた後の方がよいだろう。(委員)